

かね やまばやし い せき 金山林遺跡

金山林遺跡は、笛吹川による扇状地形が、重川によって形成された河岸段丘端部に立地しています。

調査の結果、縄文時代中期・弥生時代後期・古墳時代前期各1軒、平安時代6軒の^{たてあな}竪穴住居のほか、^{ほったて}掘立柱^{たてもの}建物跡1棟、^{どこう}溝、土坑などを発見しました。

縄文時代中期後半の竪穴住居では、^{うめがめ}逆位の埋甕内から^{どれい}土鈴が発見され、また、奥壁際に埋められた土器の中からは^{こくようせき}黒曜石の原石が入れられており、住居跡で石器の製作を行っていたことが確認されました。

平安時代の住居跡は、9世紀後半代を中心としており、そのうちの1軒からは、「山梨」と^{ぼくしょ}墨書された^{はじきつき}土師器坏が発見されました。この「山梨」墨書土器が、何を表記したのか断定できませんが、郷名を記したものであるとするならば、古代山梨郡の郷比定に重要な資料を提示したと言えます。(山梨市教育委員会・山梨文化財研究所)